

教員の長時間労働の現状とその解決策についての考察

原谷 尚希

近年、働き方改革下においてもなかなか改善されない教員の長時間労働に伴う肉体・精神疾患の増加などの問題があり、健全な教育環境を維持するためにも現状改善の重要性が増してきている。

本論文では、教員の労働時間に着目し、教員の長時間労働の現状とその解決策を考察するものである。

第一章では、「働き方改革」の定義と意義、「長時間労働」の定義とその影響について述べていく。また日本における一般労働者と教員の労働時間の変化をそれぞれ確認し、どのような変化が読み取れるかを述べていく。

第二章では教員の長時間労働の要因となる業務について、OECDの調査や筆者が行ったアンケートを基に確認し、問題点を述べていく。

第三章では前二章の内容を踏まえ、「業務管理」「適切な賃金の支払い」「部活動の適正化」「大会の見直し」の視点から改善に必要なことを考察した。「業務管理」では、教員の業務の範囲と業務時間を明確にすること、「適切な賃金の支払い」では、時間外労働に対して時間外労働手当を支払うようにすることで予算化し、業務の効率化を図ることにつながることに繋がること、「部活動の適正化」では、部活動の顧問に対して適切な対価を支払い、また現状の実質的な全顧問制を改善し、希望する教員のみが顧問として任用されるようにすること、「大会の見直し」では、部活動の地域移行に伴う中学校に頼った全国中学校体育大会の運営の見直しと、大会規模の縮小により教員の長時間労働改善につながることを示した。

健全な教育環境を維持していくためにも、教員の労働環境は一刻も早く改善するべきものである。